

2012 年度

地理学野外実習報告書 V

出 雲

IZUMO

平成 26 年 3 月

信州大学教育学部自然地理学研究室

まえがき

2012年度地理学野外実習は、2012年9月22日～26日までの4泊5日の日程で実施した。昨年度同様、最初の2日間は巡検、その後の3日は調査実習である。

参加者は羽生、清水(龍)、澤崎、西田、池田、清水(み)、千葉、中沢、門田、山崎、飯田、小倉、山田、横田の学生14名と、引率の廣内先生を合わせた15名であった。昨年に続き自然地理学研究室の学生だけでなく、他の研究室からもこの野外実習に学生が参加している。

東京発の夜行寝台列車サンライズ出雲と自家用車で現地を目指し、集合は9月22日の10:00にJR出雲市駅である。

初日の巡検では、三瓶火山南西麓にて太平山テフラを観察後、石見銀山及び石見銀山資料館を見学し、温泉津温泉「吉田屋」で1泊した。2日目は大社海成段丘露頭、島根半島北側露頭の観察及び沖泊、田儀桜井家たたら製鉄所遺跡、出雲大社、島根県古代出雲歴史博物館を見学するコースであった。2日間とも天気恵まれ充実した巡検となった。

調査実習の拠点はお出雲市で、雲州平田ホテル幸野屋に宿をお世話になった。24日からは各自が事前に決定し準備を進めてきたテーマに沿って各々の調査を実施した。調査は海成段丘、植生変化、堆積環境、地域発展など様々なテーマに取り組んだ。学生は個人調査に先立ち、事前に資料収集や分析を行い、現地では単独での現地調査や聞き取り調査などを行った。各々の調査も佳境に入る9月25日の夜には出雲の名物である蒲鉾と美味しい地酒を堪能した。実習前に3回の事前指導、実習終了後は3回の事後指導会が開かれ、廣内先生の丁寧なご指導の下、皆忙しい中合間を縫って調査準備や分析、まとめを行った。本報告書はその成果をまとめたものである。各自の努力の結晶をご覧頂けたら幸いである。

最後に、調査にあたってお忙しい中地図や資料の収集、聞き取り調査にご協力頂いた行政機関、団体、地域の皆様、会社や個人の方々に心から御礼申し上げ、ここに感謝の意を表します。

平成26年2月

中沢 萌 (信州大学教育学部自然地理学研究室4年)

2012 年度地理学野外実習報告 V

出雲

【目次】

まえがき

出雲平野南西部湖陵町周辺の海成段丘 1

池田一貴

出雲平野西部における沖積層の堆積環境 6

清水みのり

屈曲率を用いた鹿島断層東部地域の活動性評価 12

門田寛一

乃木段丘の地形発達 19

小倉妙子

戦後の宍道湖湖岸の地形変化と植生変化の関係 24

飯田杏奈

出雲大社門前町神門通り活性化の歩み 30

山崎福太郎

出雲地域における酒蔵と神社 44

中沢萌

あとがき